

●第一報告

“マルクス主義東方学”構築について

兪良早

一、“マルクス主義東方学”の定義について

私は、“マルクス主義東方学”が指しているのは、マルクス・エンゲルス・レーニンなどを含むマルクス主義古典的著作の著者の東方社会発展についての学説、特に彼らのロシア・中国など東方のかなり遅れた国が社会主義の軌道に沿って発展を実現することについての学説である、と考える。

マルクス・エンゲルス・レーニンなどマルクス主義の古典的著作の著者は、すべて東方社会発展についての学説、東方の国が社会主義の軌道に沿って発展を実現するという学説を提出し形成している。

十九世紀八十年代以降、マルクス・エンゲルスは関連する著作の中で東方に位置するロシアがいかにして社会主義に向かうかの問題を論じている。十月革命勝利以後、レーニンは系統的に東方社会発展についての学説を提出した。1920年コミンテルン第二回大会開催の前に、レーニンは大会のために「民族と植民地問題のテーゼ初稿」「土地問題テーゼ初稿」「コミンテルン第二回大会の基本的任務についてのテーゼ」など一連の文献を準備した。大会では、レーニンは「国際情勢とコミンテルンの任務についての報告」「民族と植民地委員会の報告」などの報告をおこなった。上述の文献と報告の内容からみて、レーニンの東方社会発展の学説はすでに生み出されている。これは、マルクス・エンゲルスやレーニンが東方社会発展についての学説を形成し提出したことを説明している。

二、“マルクス主義東方学”の研究対象について

“マルクス主義東方学”は新しい学術概念であるだけでなく、周知のマルクス主義哲学、マルクス主義経済学、マルクス主義歴史学、マルクス主義政治学と同様の哲学社会科学の新しい学科である。“マルクス主義東方学”の研究対象は、ロシア、中国など東方の経済・文化の遅れた国家が社会主義の軌道に沿って発展していく法則である。

先に私はマルクス・エンゲルス・レーニンが異なった時期に形成し提出したこの学説を簡単に紹介した。彼らの思想と学説を深く研究すれば、彼らがすでに提出した東方社会発展のいくつかの重要な法則を発見することができる。

第一に、東方各国の革命と建設は西方とは異なった道を歩む、あるいは“自己の道を歩む”。第二に、東方のプロレタリア階級が掌握した政権と国家は、大いに社会的生産力を発展させなければならない。第三に、東方のプロレタリア階級が政権を掌握した国家と社会主義国家は、先進文化建設に努めなければならない。第四に、東方のプロレタリア階級が政権を掌握した国家と社会主義国家は、一步一步たえまなく民主制度建設を推し進めなければならない。第五に、東方の政権を握った共産党は、必ず自身の建設を進めなければならない。第六に、東方のプロレタリア階級が政権を掌握した国家と社会主義国家は、必ず西側資本主義国家との関係をうまく処理しなければならない。

三、“マルクス主義東方学”を創立する意義

“マルクス主義東方学”を提出し、この学科の研究と発展を推し進めることの意義は、

極めて大きい。

第一に、マルクス主義理論の遺産を深く掘り下げるのに有利である。第二に、それは中国特色社会主義事業の建設に思想理論上の支持を与える。第三に、哲学社会科学の繁栄に有利である。

●第二報告

マルクス主義中国化の近世思想史背景について

宋検

マルクス主義中国化の問題を研究し、マルクス主義中国化の歴史的経験を総括することは、多くの注意すべき困難さをとまなう。本文が検討するマルクス主義中国化の近世思想史背景とは、中国近世学術思想史上の伝統あるいは特徴を指す。外来文化を土着化、民族化、中国化することは、中国近世思想史の一大特徴であり、マルクス主義の中国化は疑いもなく外来思想理論の土着化、民族化、中国化の輝かしい例である。マルクス主義中国化の問題を研究するには、この大きな文化背景と思想史背景を無視すべきではない。

中華文明、中国文化は世界文化思想史上で優勢な地位にあったので、古代以来“夏によって夷を変える”（以夏変夷。外部のものを中国のものに変えてしまう。夏は中国の古称、夷は中国外の意味—訳注）は中国思想史の一大伝統となった。“夏によって夷を変える”は民族史概念であっただけではなく、思想史概念でもあった。思想史用語としての“夏をもって夷を変える”の核心的内容は、中国思想文化にもとづいて外来思想文化を解説し同化してしまうことである。これは実際には、中国文化優勢を背景とした外来思想文化の土着化、民族化、中国化であった。最も典型的な思想史上の例は、仏教の中国化である。

近代に入って以後、中国思想文化の優勢な地位は挑戦を受け始め、しだいに優勢な地位を失っていった。この過程の中で、いわゆる“夷と夏の攻防”“夏によって夷を変える”の思想は批判と懐疑を受け始め、“夷の智を師とする”“西方に学ぶ”“西方に真理を尋ねる”（実際には“夷によって夏を変える”）は近世思想史の一大主流価値傾向となった。表面上からみれば、中国近世思想史の特徴は“夏によって夷を変える”から“夷によって夏を変える”の目標モデルと価値への転換であったが、方法論からは、この価値転換の過程の中で、あるいは近代以来の“西学東漸”、中西文化交流・衝突の過程の中で、外来思想文化を土着化、民族化、中国化することは、終始中国近代思想史の一大特徴であった。そして近世中国思想史のこの方法論の特徴は、マルクス主義の中国への伝播およびその中国化に極めて深い影響を生み出した。

マルクス主義が中国に伝わった初期、中国の進歩的知識分子の最初の反応は、その土着化、民族化であった。たとえば、李大釗は1919年8月に発表した「問題と主義再論」の中ですでに次のように認識していた。ある社会主義者が、彼の主義を世界で影響をもたせるには、どうすれば彼の理想をできるだけ彼をとりまく実際の状況に応用できるかを必ず研究しなければならない、私たちはあれこれの主義を道具として実際の運動に用いなければならない、と。彼は、時・ところ・事柄の性質によって、環境に応じて変化した思想主張を生み出さうと考え、マルクス主義中国化の最も早い自覚とみなされている。

中国のマルクス主義哲学者の中で、李達は早くからマルクス主義と中国の国情関係の問題に注意していた。1923年、李達は「マルクス学説と中国」の中で、マルクス主義に

は中国の国情と結びつく問題があることを提起し、中国の国情を離れてマルクス主義のテキストだけを引き写すことはできないと考えていた。その後、1929年の「中国産業革命概観」の中で、彼はまたマルクス主義を応用して中国を改造するには、かならず「中国社会問題の特殊性を考慮」しなければならない、という思想を明確に提出している。

マルクス主義中国化の過程は、中国共産党が実際にマルクス主義を用いて中国革命の基本問題を認識することに従っており、党の成立からすでに始まっている、と考える学者もいる。この観点は間違っていない。しかし、実はこれは当時の中国知識分子が外来思想文化を受け入れる時の正常な反応にすぎない。これは、近世中国思想史の普遍的な特徴である。毛沢東を代表とする中国共産党人が、理論上からマルクス主義中国化の問題を提出したのは、このような思想史を背景としていたからである。従って、私たちがマルクス主義中国化の問題、とりわけマルクス主義中国化の発展史を研究するには、この思想史の背景、とりわけこの思想史の背景がマルクス主義中国化の歴史過程で生み出した極めて深い影響を無視してはならないのである。

● 第三報告

マルクスの“中国の社会主義”についての思考

葉啓績

マルクス・エンゲルスは一八五〇年一月に書いた国際評論の中で、「もちろんのことながら、中国の社会主義とヨーロッパの社会主義の関係は、中国哲学とヘーゲル哲学のようなものであろう。しかし、地上最古の、そしてもっともゆるぎない帝国が、イギリスのブルジョアの更紗の梱（コ）のため八年のうちに、いずれにせよ文明にとってもっとも重大な結果をもつにちがいない社会的変革の前夜におこまれたことは、ともかくおもしろい事実である。」(1)と語った。マルクスの“中国の社会主義”という概念は、それを分析して“ヨーロッパの社会主義”の性質と同じ性格を持つという角度から提出されたものである。三年後にマルクスはまた述べている。「次のようにに予言しても大丈夫であろう。すなわち、中国革命が現在の産業組織という火薬の詰まりすぎた地雷に火花をはなち、長らく準備されてきた全般的恐慌を爆発させるであろうし、それが外国にひろがり、すぐつづいて大陸に政治革命が起こるであろう、と。」(2)マルクスがここで述べている中国革命は、ほとんど民族民主革命を指しているのだが、そのヨーロッパへの影響は巨大なものである。上からわかるように、マルクスは東方社会が世界史の道を歩むうえでいかに複雑な局面に立とうとも、歴史は常に次の自己の論理に沿って進んでいくと考えていた：閉鎖的で自足的な帝国は崩壊しようとしており、西側資本主義文明の衝撃を通してのみ、中国という東方国家は“中国の社会主義”を実現できるのである。これはまた、“中国の社会主義”実現の道の面で、それと“ヨーロッパの社会主義”との違いを説明している。

一八五九年、マルクスは人類社会の原始形態としての“アジア”(3)的生産様式という概念を提出した。一九世紀七十年代に至って、マルクスは“アジア”的生産様式の本来の含意を変え、新しい意味内容を与えた。それをを用いて、東方国家に普遍的に存在している土地公有、農村共同体、専制国家三位一体の社会状況を概括した。マルクスは、原始共産制が崩壊した後、東方の“アジア”的生産様式は、西方の奴隷社会・封建社会と平行して

発展し、東方社会は西方社会と異なった特殊な性格を備え、西方社会と異なった独自の発展の道を歩む可能性があると考えた。だから、この新しい意味内容は、重要な方法論的意義をもっている。マルクスはさらに進んで、ロシアの土地公有制は“(資本主義という)カウディナのくびき門を通ることなしに、資本主義制度によって作りあげられた肯定的な諸成果のすべてを共同体のなかに組み入れることを可能にし”“近代社会が指向している経済制度の直接の出発点となることができる。それは、自殺することから始めないでも、生まれ変わることができ”(4)、社会主義の歴史過程を切り開くことができる、という見解を提出した。従って、民族史が世界史へと向かうという条件の下で、遅れた民族がある種の飛躍的な発展を実現でき、それはすべてその歴史環境と具体的な国情によるのである。このようにマルクスは、東・西方国家発展の道を区分し、異なった国家と民族の歴史発展の道の特殊性を承認した。

マルクスの視野の中での東方国家について言うと、中国とロシアが歩んだ社会主義への道にも大きな違いがあるが、“中国の社会主義”から今日の“中国の特色をもった社会主義”までには内在論理の一致性がある：必ず十分に今日の世界の発達した文明を吸収し、社会主義を実現し、人類文明の発展のために新しい発展のモデルと道を創造するということである。

- (1) 「マルクスとエンゲルスの国際評論(一)」(1850.1.31)『マルクス・エンゲルス全集』(中文版)第七卷 人民出版社 一九七二年版 p265 (日文版全集第七卷 p228)
- (2) マルクス「中国とヨーロッパにおける革命」(1983.5)『マルクス・エンゲルス選集』(中文版)第二卷 人民出版社 一九七二年版 p6 (日文版全集第九卷 p96)
- (3) マルクス『『経済学批判』序文』(1859.1)『マルクス・エンゲルス選集』(中文版)第二卷 人民出版社 一九七二年版 p83
- (4) マルクス「イ・ザスーリチの手紙への回答の下書き」(1881.2)『マルクス・エンゲルス選集』(中文版)第三卷 人民出版社 一九九五年版 p765、767 (日文版全集第19巻 p392,394) *カウディナのくびき門は、中国語では卡夫丁峡谷。日文版全集の注には、くびき門の言語 furca には峠の意味もあり、カウディナ峠を通るとも訳せる、とある。

● 第四報告

マルクス人間学思想の東方社会への影響

— 現在の中国の現代化進展の中での人間本位思考の形成を視覚として

李輝

マルクス人間学思想は、マルクス主義の重要な内容である。西洋の学問が東方に伝わるゆっくりとした過程の中で、マルクス人間学思想もしだいに東方社会の発展とりわけ現在の中国の現代化過程に影響した。

マルクスは西洋社会の現代化過程の中で、“人間とは何か”と“人間はどうあるべきか”という二つの人間学の核心的話題を探索した。人間の自由の自覚というあらかじめ設定された前提から出発して、資本主義自由競争時期の人間疎外を分析し、人間の全面发展の理論を提出した。現実の人間と現実の社会から出発して、経済学批判の研究を行う中で、資本主義社会の中で“人間はどうあるべきか”という問題を透視した。

マルクス人間学思想の中国現代化過程への影響は、政治的人間、経済的人間、社会的人間の過程を漸次歩んできた。この過程は、農業文明を歴史的基礎とする東方社会が現代化の道を追求する時思考した民権、民生、民主と合致する。

第一に、マルクスの人間の本質についての理論は、民主革命の時期の中国人の機能定位に影響した。マルクスは、人間の本質は“その現実性において、あらゆる社会関係の総和である”（『マルクスエンゲルス選集』第一卷六十ページ、人民出版社1995年版）ことを提出した。すなわち、人間は抽象的な存在ではなく、具体的歴史的関係による存在だということである。各種の社会関係の中で決定的役割を果たすのは、経済関係である。この論断は、中国民主主義革命期の人間と人間の関係についての認識を変え、階級を基準とする社会分化の理論と人民大衆を主体とする社会発展動力観が形成された。

第二は、マルクスの人間全面发展に関する理論が、社会主義建設期の発展の価値定位に影響したことである。マルクスは生命を持っている人間の存在があらゆる人類史の第一の前提であることから出発し、人間の全面的発展の基本内容を論証した。すなわち労働力、社会関係と個性の全面发展である。彼の言葉の中では、人間の全面发展は社会発展の目標であるだけでなく、社会発展を評価する基準の一つにもなっている。社会発展の目標からみると、マルクスは共産主義社会を自由な人間の連合体として記述している。“ここでは、個々の人間の自由な発展は、全人間の自由な発展の条件となっている。”（『マルクスエンゲルス選集』第一卷294ページ、人民出版社 1995年版）社会の評価基準からみると、ある社会の文明の程度は、その社会の人間発展への影響を通して表現される。従って、彼は、人間の間への依存、人間の物質への依存と、自由な個性の社会での主導的地位から社会形態を区分する。東方国家、特に中国は、長い農業文明の過程が人間の間への依存関係の長期化をもたらした。そしてまた現代化の中での市場化、グローバル化と情報化などの力は、人間の物質への依存関係を絶え間なく増強させており、物質的方向志向など偏った発展の表現が出現している。こうして、社会発展がどのように人間の全面发展を促進するか、人間の全面发展がいかに社会進歩の中で確認されるかは、現在の中国社会が回答を切望している問題となっている。人間を基本とする社会発展の理念は、このような背景のもとで提出されたのである。

●第五報告

中国特色社会主義の価値定位

鍾明華

今年是中国改革开放三十年である。三十年来の中国の発展は、全世界が注目する成果を勝ち取り、近代以来の遅れて疲れ果てた状態を急速に脱し、建国後の“左傾路線”と伝統的社会主义モデルの硬化し閉ざされた局面を急速に脱し、富み栄え、民主的、文明的、調和的な新中国へと向かっている。これらすべてが、中国特色社会主義がもたらした成果なのである。

社会主義は資本主義の超越であり、人類文明の底上げであり、勤労大衆を主体とする全人民を幸福で美しい生活へと向かわせる思想理論、社会運動、社会制度である。中国特色社会主義は、新時期のわが国社会主義建設の過程の中で、中国共产党人が科学的社会主义の基本原則と中国の実際とを結合させた理論革新の成果であり、この理論の指導の下での

中国社会主義実践モデルと発展の道でもある。それは、遠大な社会理想と着実に絶え間なく社会発展を推進する段階性、目標性の二つの大きな内容を含んでいる。中国社会主義の主要な特色と価値内容には、以下の各面がある。

まず、社会形態の面：社会主義初級段階は、中国特色社会主義の現実的基礎である。

次に、経済形態の面：社会主義市場経済は、中国特色社会主義の基本内容である。

第三に、経済制度の面：公有制を主体とし、多様な所有制経済が共に発展し、需要に基づく分配を主とし、多様な分配方式が併存する分配制度を実行する。最大限に社会的生産力を発展させ、同時に公平と効率を兼ね備え、一部の人が誠実な労働によって多くの貢献をし先に豊かになることを奨励し、それによって社会が共に豊かになることを導き実現させる。これが、中国特色社会主義の制度革新である。

第四に、発展の道の面：内需拡大・工業化と情報化が共に融合した新しい工業化の道を実行する。工業によって農業を促進し、都市が農村を引き連れ一体化して発展する農業現代化の道を歩む。都市と農村に共に配慮した合理的な状態を実現する。大が小を引き連れ、大中小都市と農村が協力して発展する都市化の道を歩む。

第五に、民主政治の面：人民代表大会の制度、共産党指導下の多党協力と政治協商制度、民族地域の自治制度および基層大衆自治制度を堅持しより良いものにし、社会主義政治文明をたえまなく推進し発展させる。

第六に、国を治める方略：政治・経済・文化・社会建設が同時に進行し、物質・精神の双方がしっかりしており、法によって国を治め、厳格に党を統治し、経済基礎改革と上部構造改革を結合させ、経済発展と犯罪抑制を結合させ、社会的生産力発展と民族文化素質の向上を結合させる。

第七に、政権党建設の面：中国特色社会主義事業の発展過程の中で、社会状況や国情・党情の新変化に基づき、革新精神によって党の建設を進める。主に、政権担当能力の建設および先進性建設を主体とした思想・組織・作風・制度および反腐敗建設をおこない、党を終始公のために立党し、民のために政権を担当し、真実を求めて実行し、改革革新し、困苦奮闘し、清廉潔白で、活力に富み、団結し協調したマルクス主義政党とし、終始中国特色社会主義事業の強固な指導核心とする。

中国特色社会主義は、中国改革開放三十年の産物である。それは、ソ連モデルを代表とする伝統的社会主義に対して言い出されたと同時に、伝統的社会主義モデルを突破した産物である。同時に、グローバル化の時代にあつて、“ワシントン・コンセンサス”を代表とする自由主義および民主社会主義を代表とする第三の道の挑戦の中で形成されたものであり、現に形成され発展しつつある新しい社会主義なのである。

●第六報告

グローバル化の視角から中国特色社会主義の道と理論体系を読み解く

王永貴

中国特色社会主義とは、改革開放以来中国共産党人が人民を引き連れ科学的社會主義の基本原則の指導の下、社会主義初期段階という基本的国情に立脚し、経済グローバル化と平和発展という時代特徴に直面して進めている偉大な歴史的創造である。この創造は、実践上では中国特色社会主義の道を切り開くことに体现され、理論上では中国特色社会主義

の理論体系を形成することに体现されている。中国特特色社会主義は、実際には、東方の遅れた国家が社会主義発展の道を探索した成功的模範的事例である。

経済グローバル化は、今日の世界発展の客観的趨勢であり歴史的潮流である。グローバル化の歴史的進展と社会主義の発展は密接な関係があり、グローバル化は本質的には社会主義と目標の一致性、発展の相互性と価値の整合性がある。経済グローバル化の発展過程と中国特特色社会主義の開拓には、密接な関連がある。猛烈に発展する経済グローバル化によって深刻な変化をもたらされた現代世界の大勢が、中国特特色社会主義を切り開く時代背景である。まさに、世界発展過程の全面的な比較の中で、各国の発展経験や教訓を科学的に分析する中で、経済グローバル化の挑戦に積極的に対応する中で、現代中国は東方の経済文化がかなり遅れた国家独特の発展の道を探り当てた。このように、中国特特色社会主義の道は、現代中国が経済グローバル化の波に直面して切り開いた新しい発展の道である。

いかなる科学的真理も、すべてそれを生み出した歴史的條件、時代の必要と歴史的必然性がある。中国特特色社会主義の理論体系も、経済グローバル化の挑戦に応える過程の中で打ち立てられたえまなく発展してきたのである。改革開放の三十年の実践は証明している。理論上では、中国特特色社会主義理論体系およびその異なった段階での鄧小平理論、“三つの代表”重要思想、科学的發展觀などの戦略思想は、グローバル化の挑戦に直面した社会主義理論の革新であり、中国が平和発展の道を歩み、民族の偉大な復興を実現する思想的理論的旗印である。実践上では、中国特特色社会主義の偉大な事業は、人類グローバル化の過程の重要な構成部分であり、現代社会主義がグローバル化の挑戦に応えた成功事例である。従って、中国特特色社会主義の理論体系は、現代中国がグローバル化の進行過程に参加する中で社会主義理論の革新と、民族の偉大な復興を実現する思想的旗印である。

結局のところ、グローバル化の視角から出発するなら、時代背景からみれば、中国特特色社会主義の道は経済グローバル化の猛烈な発展という歴史的背景のもとで切り開かれたものである。理論座標からみれば、中国特特色社会主義理論体系は、中国共産党人が全国人民を率いてグローバル化に参加する過程の中での中国化したマルクス主義理論と実践認識の昇華であり飛躍であり、中華民族の偉大な復興を実現する理論的旗印である。実践方面と時代的価値からみると、中国特特色社会主義の偉大な事業は、人類グローバル化の歴史進展の重要な構成部分であり、世界平和発展の重要な力である。従って、グローバル化の進展の中での中国特特色社会主義の道の開拓と中国特特色社会主義の理論体系の形成は、重要な理論価値と実践意義を持つ。中国特特色社会主義は、人類グローバル化の歴史進展の重要な構成部分であり、世界平和発展の重要な力である。

●第七報告

マルクス主義發展理論と中国人の自己実現

余双好

自己実現は、アメリカの人間性心理学者マズローが提出した概念である。その意味は、人間の潜在的な能力・価値が十分に体现され発揮されることを指す。マルクス主義の發展理論が中国に入る以前、伝統的中国人の自己実現方式は、主に身を修め、家を斉（ととの）え、国を治め、天下を太平にするという一揃いの理論と方法であり、“内に聖であり外に

王である”という目的に到達し、“心の欲するところに従って則（のり）を超えず”という自己実現状態を実現させるものであった。アヘン戦争は伝統的中国人の人生設計を打破し、中国の近現代先進知識人は新しい自己実現の道と方式を模索し始めた。しかし、中国近現代の心ある人々は自己実現を求める過程の中で、いずれも似通った発展の軌跡を歩んだ。すなわち、中国の伝統的自己実現の理論と方式から出発し、伝統文化に対する反抗を経て、西方の自己実現が実現する道を探し求め、最後にはまた伝統的な自己実現の枠に戻っていき、本質的には中国の伝統的な自己実現方式への超越を実現していない、というものであった。

マルクス主義の中国への伝播は、中国人に中国の社会問題を解決する良い方法を探し出させただけでなく、中国の伝統的な自己実現方式とは異なる自己実現の道を探し出させた。マルクス主義の発展理論は、中国の伝統的な自己実現観念と内的な関連を有しているだけでなく、同時に中国の伝統的な自己実現と西方の自己実現の限界性を超越していた。第一に、マルクス主義の発展理論は、個人の自由の全面的発展を発展の最終目標とし、自己実現の重視を体現し、中国の伝統的自己実現理論に対する超越を実現し、人間性発展が到達できる最高の境地を掘り起こした。第二に、マルクス主義の発展理論は、個人の発展と人間全体の発展を結びつけ、個人の発展と社会の発展の二方向の相互関係を重視し、西方の自己実現理論に対する超越を実現した。第三に、マルクス主義の発展理論は、広大な人民のために当面の発展を通して未来の遠大な発展を実現するという科学的な道を指し示し、広大な人民大衆が自己価値を実現させるために発展の方向と道筋を指し示した。マルクス主義の中国への伝播は、中国に革命の勝利をもたらしただけでなく、一群の理想が遠大で信念が堅固であり、現実を重んじ民衆の生活に関心を抱く共産党員を作り出した。まさにこれらのマルクス主義で武装した共産党員が中華民族の発展を支える背骨となり、中華民族の大黒柱となったのである。

改革開放と社会主義現代化の今日、マルクス主義発展理論の基礎の上に形成され発展してきた科学的発展観は、現代中国マルクス主義の発展理論である。科学的発展観は、広大な人民大衆の全体的発展を発展の基礎とし、全面的に協調し持続可能な発展を発展の基本的要求とし、個体と社会の全面的発展進歩を発展の目標とし、中国社会の発展に堅実な理論的基礎を提供した。科学的発展観は、中国社会の発展を指導する新しい理論であるだけでなく、人間生活の全面的に協調し持続可能な発展の自己実現の理論ともなることができ、現代中国人の自己実現の方式と道を改め、現代中国人の科学発展方式によって自己の潜在能力と価値を実現させることを促進するであろう。

(翻訳：瀬戸宏)